

## 本年の上げ馬神事を終えて

今般多度大社御厨総代会において第三者の外部委員を招聘し多度大社上げ馬神事方検討会（以下検討会と称する）を開催し、事前の検討を経た提言に基づく改善事項の実施状況と、今後に向けた更なる改善事項について検証を行いました。

本年の当該神事齋行は申すまでもなく、昨年事故に起因するさまざまにお寄せいただいたご意見の集約と、それを踏まえた社会通念上広く受け入れられる神事を齋行することに意を用い、多度大社御厨総代会始め祭事関係者一同はその覚悟を新たに奉仕いたしました。

当該神事の齋了を受け開催された検討会における議論の概要について広くお知らせいたします。

### 記

提議された議題について

#### ・本年の上げ馬神事について

多度大社御厨総代会から、多岐にわたる改善事項と、これまで伝統されてきた諸行事・儀式をいかに継承するか度重なる議論を重ね、これを機に当該神事が保持する意義をより一層知る機会を得て、より良い当該神事の継承に意を用いたい。

外部委員各位から、本年については概ね世間に受け入れられたと思われる。

#### ・来年以降の上げ馬神事について

今後この神事の継承は一般の方々の声によるところが大であり、馬を取り巻く現状を把握し、当該神事が持続可能な神事として、人と馬とが身近な存在としてのきっかけとなる神事であることが望ましい。

上げ坂後の境内における祭馬の停止方法について、現行の方法には問題があり、境内を安全に周回しつつ速度を落とし、自然に止められる方法について検討を要する。

従来祭馬の曳き方については現状にはそぐわないとの指摘を受け、祭馬のストレスとならない曳き方に改めるべく、今後も継続して検討を重ねることとする。

(議論の概要)

・検討会より事前に示された提案事項の実施状況について

以前と比べれば徐々に改善がなされ、概ね所期の目標は達せられたと思われる。

当該神事斎行前に検討会より示された提案事項については、概ね提案内容に沿った進行がなされていた。

動物福祉の観点に立った祭馬の取り扱いについて、まだまだ改善の余地があり、それを受け入れられ得る祭事関係者の深い理解を基に、よりきめ細かい講習会を今後とも継続し、より一層多くの方々に受け入れられるよう努めるべきである。

先般の検討会による提案事項に基づいた改善事項に加え、馴致を経て発出された改善事項の細則及び追加決定事項の事前公表及び、当該神事当日の境内及び馬場周辺におけるチラシの配布や場内アナウンスなどがなされていたことは、提案事項の意に沿うものであり、今後とも引き続きその取り組みを続けていくべきである。

事前の数度に及ぶ各講習会において、当該神事にかかわる全ての方々の参加を得て、非常に活発な議論がなされた。従来神事のありようを始め、その象徴であった上げ坂の先のいわゆる壁の有無については、特に議論がなされ、本年の当該神事を経てもなお、その構造のあり方について引き続き議論することの重要性が認められた。

当該神事の進行上、参加する御厨が乗り込みに先立って馬場の南詰ないし北詰に一堂に会することは事実上不可能であり、南詰より参入する御厨と北詰より参入する御厨が、それぞれの御厨において「総見」のうえ、乗り込むこととした。

講習会の受講と誓約書の提出、それに伴う受講修了を証するシールの貼付については、御厨氏子はもとより、祭馬の調達に関わる方々にまでその意図するところを了解いただけたことは、想定外の成果であったと思われる。但し、注意事項そのもの及び細部にわたる祭馬の取り扱いについては、操馬術のみならず動物福祉の観点からも未だ改善の余地があり、今後とも引き続き適正な取り扱いについて検討と改善を要すると思われる。

楠廻りの行事については、曳き馬にて行われた。また、坂を上がらなかった祭馬がいなかったため、正面階段を経て境内に至る祭馬は皆無であっ

た。また、行事・儀式の進行に合わせ、獣医師は馬繋場及び上げ坂付近を移動しつつ万が一の事態に備えるとともに、馬運車を馬場南詰に常駐させていた。

坂上げに際し騎手が携行する鞭は馬術用のものを携行させたが、四日の行事終了後、携行不要との意見があり、五日は全ての騎手が鞭を携行せず坂上げに挑んだ。今後、騎手の威儀を正すものとしての鞭についてその有無を含め検討を要すると思われる。

騎手が坂上げに臨む際にスタート地点に入る祭事関係者は6名までとし、中間縄を離れた後は、祭馬が停止した時点及び騎手以外の者が馬体に触れた時点でその地区の坂上げは曳き馬をもっておこなうこととする点について、事前の講習会においても活発に議論がなされたが人数にこだわり、祭馬を扱う者の修練の度合いによる事故を誘発することへの懸念も認められたので、必要最低限の人数とした。また、中間縄を離れた以降停止する祭馬は皆無であった。

監視委員会及び馬場取締役については、監視委員を対象とした研修会はもとより事前の各講習会へも積極的に参加され、自己の役割についての理解を深め、祭事関係者への注意喚起はもとより、祭馬へのストレスとなるカメラのフラッシュ、棧敷席での日傘を差しての拝観者に対しても適切に注意を促していたことが認められた。

今般定められた「多度大社例祭神事斎行における申し合わせ事項」に基づく講習会を経て過去を省み、これまで伝承されてきた当該神事の重みとその意図するところに思いを致し、広く世論の動向を鑑みつつ伝統を担う御厨氏子の一人として自己の研鑽に取り組む姿が認められた。

従来は坂の両側に立っていわゆる壁へ誘導する役割として走路に祭事関係者が並び、本来の役割を果たさず祭馬を叩くなど不適切と思われる行為に及ぶ者がいたことは事実である。今般いわゆる壁の撤去に伴い、境内までの走路が大幅に広がった結果、祭馬によってはその走路が定めにくいことが判明した。これを踏まえて本年以降は境内に誘導する本来の姿に立ち返るとともに、従来祭馬への声援を送っていた行為も、それが祭馬にとってストレスとなり得るとの学びを得て、前方からの声援を控え、祭馬が通過した後に声援を送ることとした。また、このことは祭馬がスタート地点

に入った時点で棧敷席及び境内の拝観者にも適宜場内アナウンスで周知していることが認められた。

- ・その他

理想論ではあるが、各御厨が年間を通じ馬を飼養する環境の整備ができれば、人と馬との繋がりが生まれるのではないかと思われる。

今後ともこの神事が末永く継承されるよう、先般の勧告に対する回答書に述べられた内容及び、自主的に策定された改善事項を今後とも継続して丁寧に履行されたい。

以上